平成１５年度英語教員指導力向上研修「授業改善プロジェクト」　　番号１５０７０

研究テーマ：　話す力を伸ばすための指導の工夫

所属　高知市立青柳中学校

氏名　近藤　久美子
ＲＧ　ＪＨ１

１　研究の背景

（１）今、授業でとてもうまくいっていること
担当している学年(３年)全体が、英語の学習に興味を持ち、授業に臨んでいること。

（２）今、授業で抱えている問題や悩み
「英語の授業は楽しいが、内容が難しい」という生徒の声に応えて、力を定着させるための工夫が必要。卒業まで時間のない３年生にどれだけの力をつけることができるか。

課題　①書く力をつけるための宿題の出し方
②評価規準の決め方
③適切なペーパーテストの作成の仕方
④ＡＬＴとの効果的なＴＴの仕方

（②③については、四国英語教育研究大会の発表者として、研究グループの仲間と共に集中的に学習する機会を得た。）

２　リサーチ・クエスチョン

「学習した表現を使って、間違いを恐れずに、ペアで２分間会話ができるようにするにはどのようにすればよいか」

３　予備調査

1　英語力を示すデータ

①　ＣＲＴ　４領域では話すことが最も高い得点率であった。
小領域別に見ると、「会話を続ける表現を知ること」が最も高く
「文字などの知識を身につけること」が最も低かった。

2　アンケート結果

（１）あなたが今、一番つけたい力は？　　読む２　聞く５　書く１５　　話す１５

（２）卒業するまでに～ができるようになりたい。
・英検３級　合格　　・もっと話せるようになりたい。
・英語が得意になりたい。　　・すらすら読めるようになりたい。など

４　仮説の設定

仮説１　Information Gap を利用した言語活動を仕組むと、話す意欲が増すようになる。
仮説２　Reading に自信がつくと、話すのに抵抗が少なくなり、会話が弾む。
仮説３　一時間ごとに到達目標をはっきりさせると、達成感が得られ、力がつく。

５　計画の実践　、

仮説１の実践　新しい文型の導入の際、できるだけ身近な例を上げ、興味を持たせた。仲間の知られざる一面に触れることのできるＱ＆Ａ、自分で考えたＱで対話が生き生きとしていた。生徒が質問を選べ、知らなかった事実を知ることができ、会話を楽しんでいた。

仮説２の実践　ＡＬＴでなく、友達の前で英語を話すのは気恥ずかしいような、妙な抵抗感がある。英語的な発音やイントネーションに気をつけて読むことを課題とし、毎時間ペア練習を行うと、より一層上手に読みたいとの欲が出てきて、宿題にしなくても密かに家庭で練習をしてくるようになった。生徒同士で自然に教えあう姿が見られ、日本人相手でも英語を使うことに抵抗を感じなくなったようだ。

仮説３の実践　指導計画を考える中で、授業者が明確な到達目標を持ち、一時間ごとの目標をはっきりさせることで、その日に集中してやるべきことが分かり、生徒も達成感を得られるという

「一粒で二度おいしい」満足感が得られた。

6　実践の結果

① 英語で話すことに抵抗がなくなり、誰とペアを組んでも会話が弾むようになってきた。
② 授業以外でも、英語で簡単な会話をしたり、私に英語で話しかけたり、教科書以外にも本を買ってみたりと、英語を使うことを楽しむ生徒が増えてきた。
③ ３年の２学期末においてでさえ、好んで発表をしたがり、当たらないとアピールをしてまで当ててもらうという積極的な生徒が増えた。
④ Reading Test は、最初は教師と生徒１対１で行ったが、みんなの前で実施できるように持って行くと、意外な生徒が大変頑張り、教師からも生徒からも賞賛の声が届くと、次時へのジャンプアップにつながった。Reading Test は全員が合格するように、必死で練習してくるようになった。特に、ALT がいるときの Reading Test は大変効果的であった。
⑤ 発音に自信がついた。喜んで、ペア練習に取り組むようになった。机間指導に回ると、あっちこっちから質問の声がかかるようになった。
⑥ 放課後、「今日は英語の授業でこんなことをした。」と違うクラスの生徒同士が情報交換をしたり、他の教科の先生にその日に習った英語を教えたりとほほえましい光景が見られた、との報告が届くようになった。
⑦ 英語の歌の歌詞を気をつけて聞くようになり、習っている文法を見つけると情報をくれるようになってきた。時間に余裕があるときは、授業で紹介した。
⑧ 家庭学習ノートでは、単語の練習のみだった生徒が、自分なりに工夫をして、学習するようになってきた。
⑨ 達成感を得て、より高いレベルを目指す生徒が増えたことはうれしい限りである。
⑩ 何よりも、英語好きの生徒が増え、積極的に授業を楽しもうという姿勢が見られ、私自身も教材などの授業の準備をするのが楽しみである。

7　結果の検証

＊　単元テストでは評価の観点を絞った問題を出した。ペア練習をよく行った It~for-to　の構文は７０％以上がＢまたはＡであった。

＊　中間、期末テストは記号による解答は Listening くらいであったが、大勢の生徒が大変良く学習ができており、自信を持ってテストに臨んでおり、「何点やった？」と採点を心待ちにする生徒が増えた。

学年平均	１学期中間テスト	５３．２点
	期末テスト	６３．３点
	２学期中間テスト	６７．９点＃
	期末テスト	６３．２点

＃は中間テストの前に単元テストを実施したので、普段より理解の観点の問題が増えている。

そのため、平均点が普段より高かった。

＊　外国の文化に触れる機会（たとえば、ハローウィンなど）を通して、より一層外国語への関心が高まった。昨年の今頃は、様々な理由から隣同士のペア活動は成立しなかったが、現在は全員が、しかも笑顔でペア活動を楽しんでいる。

8　成果と今後の課題

成果：　この研修を通して、自分自身の授業・指導計画・評価計画について見直すことができた。生徒にいつまでに、どのような力をつけたいかをよく考えるようになった。ラッキーなことに、四国大会での発表者として多くの先生方と共に学習をする機会をいただいたことも、アクションリサーチを進める上で、大変役に立った。

また、生徒たちとの関係も、指導者と生徒でありながら、共に英語学習を楽しむことができたように感じた。

課題：　〇コミュニケーション能力の育成が叫ばれ、言語活動重視に陥りがちで、一時間でどんな力をつけたいのか、をもっと考えることが必要である。

〇生徒の学習意欲が高まり、到達目標も高まるにつれ、教師自身の英語力が問われる。今

回の研修でテストを受けたが、散々な結果であった。上手に時間をやり繰りして、一日も早く、ブラッシュ　アップしなければいけないと痛切に感じた。